

---

領域名：教養科目・専門関連科目

報告者：金城 芳秀

---

教育及び実践の課題

---

臨地実習における実習指導者、実習指導教員の言動によっては、看護学生が深く傷つき、看護師になること自体を諦めてしまうこともある。成長につながる自信と能力を得ることもある。学生をケアに参加させない、学生の質問や存在を無視する、他者の前で叱責する、学生の不安を煽るなど、臨床教育環境での学生に対する無礼な行動（incivility）は、看護学生から看護師への移行（transition）にも悪い影響を与えかねない。そこには incivility によるネガティブな体験は“nurses eat their young”への連鎖の入り口にもなりかねないという危惧がある。看護学生の学術的重圧を再認識する必要がある、教育的・支援的な環境の構築が課題である。

---

活用した論文の概要

---

Tecza ら（2015）は、看護学生が認知する臨床看護師の礼節な（civil）、あるいは無礼な（uncivil）行動を測定する尺度として Nursing Student Perception of Civil and Uncivil Behaviors（NSPCUB）を開発し、その妥当性と信頼性を示した。NSPCUB の理論的枠組みは Duff's Quality Caring Model であり、文献レビューと 3 校 4 人の看護学生への半構造化面接から、「互いに敬意を払う」「参加にあたり指導を行う」および「学生中心である」を導き出した。NSPCUB の 12 項目は、病院看護管理者が自施設の環境は civility か、incivility か、現状認識を高めることができる尺度と結論している。

---

教育及び実践への活用

---

NSPCUB は、臨床教育環境における civility と incivility を同時に測定する尺度として開発された。看護学生、実習指導者、実習指導教員の三者間の相互作用により、看護学生から看護専門職者へのトランジションに影響を及ぼすという見解であった。この点を学内外の教員と討議した際、実習経験が学生自身の進路や就職先の選択に影響を及ぼすことが指摘された。わが国には civility や incivility に関する看護研究が見当たらないため、日本語での適切な定義や概念を示す必要性など、課題も明らかになった。

本学での「実習指導の成功例から学ぶ」グループワークから、実習指導上の civility な関わりが報告された（平成 29 年度第 3 回実習専門部会資料）。例えば、学生が主体的に動けるように説明する、気づくように働きかける、気持ちや力を引き出すなど、気づきの促しやフィードバックの工夫が示されている。実習指導者や実習指導教員への期待は、学生が積極的に質問するように奨励し、学生が計画した看護ケアを実施し、振り返り、自ら改善できるように支持的に関わることである。今後、臨床教育環境の現状認識に NSPCUB を活用することにより、教育と臨床とのさらなる連携が期待できる。

---

参考文献

---

Tecza BM, Boots BK, Clay PM, Kirkman KS, Mains BC, Newton EE, Olney A, Bartlett JA. (2015). Development of an instrument to measure civil and uncivil behaviors in the hospital clinical environment. The Journal of Nursing Administration, 45, 391-397.

---

